2018年2月28日 263-292頁

第 9 口 章 1 バ

jν 化 時 代 お It る |社会設計| ャル・デザイン

Social Design の未来にむけて

稲賀繁美

Ι 序 ゲ 口 ーバライゼイションとその 、限界

ストラリア人の運転する車が る事件 地 から始めたい。 元の少年を殺傷した。 こ の 治島嶼 は観光客が多く、 交通事故が多発する。 ある島で 依頼

オー

ヴ

ア

ヌア

グサ

和

国でのあ

で、

别

の島

から

チ

ĺ

. フ

と呼ば

n

族の家族が

事故は運転手が起こしたものではなく、

から示された示談金の支払い

に加害者が同意し、

は受け取れ

な

1

と言

1) 始

め

る。

運転手に責任がない

以上、

示談金は減

1

大津留

香織

__ グ

П

] バ

ル社会における葛藤解

決手段の考察

ヴァヌ

アツ共和国

0) 事例

から

第二

一回アジ

ア未来会議、

公益財団法人渥美国際交流財団

大津留香織氏に謝意を表す

二〇一六年一〇月一日)。資料提供と公表許可について、

関口グローバル研究会(北九州、

る仲介者が示談のため 事態は迅速に落着にむかうかと思われた。 彼らが 12 地 被った呪 招 元の か 慣習に従い、 n る。 『詛ゆえに発生したものだから、 初 面会に続く二度目の会合で、 事故を起こした運転手の だがこの後、 示談金

額されるべきだが、 その代わ りこ 0

第9章 グローバル化時代における「社会設計」 263

遺

遺族

ŀ 運転手は被害者の遺族と象徴的な家族関係に入 ラ 1) 人は 素直 に受け 入れ、 両者 0) 和解 は成成 立 0 7 たか ほ L に見え 7 n が 彼ら の訴えだっ 0) 申 出

)する を示 死 É ところ には受け で Ü あ 関 気 1 従は元 n わる謂 被害者 帰国する からな ħ たまたま弁 れはない。 ず、 加害者は、 の家族 かったの 金銭 E 連絡を絶っ 護士を生業として で この 最低数年間収監され ŧ 0 いだろう。 割 賠 h 一件に取材 償 切 が れな てしまう。 :終わ 欧米の法律感覚からすれ 1 つ 感情 した第三者の いたこの た以 るの ごが蟠っ おそ Ę が当然の オ そこ らく彼は遺族側 たとい 文化人類学者に対して、 ス トラリア ら先の ケ う。 ば、 ースだったという。 実際、 地元 一件 から の言う 0 事情通 はすでに落着済み 0 慣習 白 「家族関係」 人 八旅行 0 (と り 퇸 仲介者は依頼主 る 者 b ところ、 は、 17 なるも | 呪詛 であ 減 額 り、 同 0) ಶ 굸 一の態 を額 様 n ***** そ 0) た 度に 交通 12 n 面 示 以 ٤ 不 お 上

る。 なら 能な喪失 0 獄 して さらに社会的な制裁は犯罪行為に対する予備的 章 Ė は つや損 ヴァ ŧ か 失にな の倫理観にも裏打ちされた法体系 ヌ つて 会設計」(social design) 不 ア 可 だが罪に **ツ**の 0 お苦し 社会的関係を回復できず、 な 事 ·損失 例 対す んで を lt る懲罰だ 1 「共感」 る つ Ļ して無縁ではあ を話題とするが 12 加害者 H よる で、 孤立 新たな家族 側も賠償や服役によ 社会的な絆を修復す は、 正義を等価交換によ いるまい して立ち直 な警告としても用 社会設計 0)関係 口 れぬままの 0 が 7 創 法 つ 3 「多文化共生 出 3 2 の法理に基づき て、 12 Ġ 0 す は n 7 人生を送る場合も少 つ × 回 容易でな て置換 てを清算す 犯罪 復できるとの 0) Ó た め 再発や増幅 よう 0) ユ 被害者 ダ 技 ることは が前提 t す なくな Ш る に立 は 丰 を \sim ヴ 適 0) 意 口 1) 復不 防壁 ア ゎ つ ス U な 7 ヌ す T 1, 可 0 1 教

E デ w 次 元でそ ñ な h 0 合理 をは b h で 1

そ E Ġ 韵 合 グ つ 場合 利 な融和を保証するには、 がなさ n 口 は な つ て水平 拉 ŧ バ りに高度に整えら 立 司 あ n IV る過程 に等 る 文化 のでは 面 する時代に に連結さ で 崩 だがが 0) 全球化 ない 0) 葛藤を ħ 相互 そこ ってい ń あ か 0 0 1 た官僚制度を有 あ っ 円滑 乗り入 るように見える。 まりに暴力的 思えばグロー 限界を示唆 て、 で獲得され 和解 12 n 不可能 消 L そ入 た表 Ť 7 Ü で粗野な「手切れ バ ル化 面的 な状 1 W h だがそ 組ん 専門化 る とは、 Ü な透明性は、 況下で修復的司法 だ垂 は ħ した規 だけ |直構 ŧ 1, つ か 金 では、 造群 にも 律や風紀によって統御 ぱら経済 共存する複数 L 不 は、 この環境 十分だろう。 か想定し 0 電子通 可能性 B 金融 信網に ていな 0 を探る で発生する社会問 0 次元で、 文化 冒 され 代表され 圏 12 頭 1, は 12 0) 述 それ 道徳的 度量衡 7 ベ b たヴ ぞ る 情報 題 n あ P 0) 7 r B 0) る 制 知 伝達手 共同 度的 恵が ヌ 1 てそ は ア ٤ h 心 な

П 美術館 博物館 の設計 に見る社 会空間 0 刷

ここで、 般を考える 美術館 ü . は 博物館空間 共同 体 の設計 0) 記 憶 収 に視点を移そう。 蔵 庫に 7 人 々 司 が 集う 法問 広場 題とは 見無縁 T とも 0) 機能を 映 3 蕳 が b 直 公共 空間 から 0 b 265 第9章 グローバル化時代における「社会設計」

0)

巨大な建

0

 \Box

つ

来た訪 水流

問者

は

坂 か

0)

ス た

口 か

プ よう つ

に沿

つ

7

間

と自

然

に足

を

ピ る

が とに 据

えら な 物

7

b

1,

0) 導

タ

ピ た

n

が

市

良

Þ 0)

光客を引き

社会的

な

る。

まる h

で想像 までや

Ï.

0 7

か

n

よう

0

床

央に

は 央の

か

つ

7

巨

大

な発電機

0

[復する発動機

の役割を果たし

7

定は



図9-1 テイト・モダン (2000年に 工事中の内部(中央に発電機の

ては

口

0

护

ス

ク

に位

0)

museum とし

て近

年

大きな成

果をあ

(social design)

も地続きで含まれ

公開)

出所: Tate Modern 公式サイトより

ダ

を逸することはできま

·図 9

残骸)

0)

一場だ

々

は

あ

か

去

0)

郷愁に

0

この

建

へと引

ŧ

せら

n

る。

z

た建物 モ

は重

工業時

代の

廃墟と言

つ

てよ

C

まや除去され る。 へと登 12 従 館 たこ 0 楼 は著 7

な

つ

7

0

こって、 か こう 高 た設定は不便極まりな 0) 文化空間 す る b 1 椅 趣 0 向 ス が

12 0)

ょ 空間設

つ

て、

あ

ŧ

う

的 Museum

だ

5

だ

が h

身

が

自

由

う手

換も [な高 丈高

あ

身障者にと デ し てこう た追加措置は 元来の建築に 対す る予 せ X 侵害となり 口 プや昇 降機を設 審美的 lt 機能 ると 1

的 デ #

b た珍品に嘆声をあ ŧ た豪華絢爛 国家体 は 般庶民と たる 移行 る見 は無縁の ととも 『な財宝に 元世物だっ に、 垂涎の 大衆の を奪 的とい い眼差 だが収蔵品 わ n うよりは、 る体 しにも が 国民の さも か 国民そ n

か

つ

7

を来

か

ね

な

· 図 9

ここには展示物

0

社会的位置に

つ

()

7

の変更が

ま

っ

7

1

ては王

なけ た提

ば、

国

か

ら将来され

ス 多 たも

示施設 つ

と変貌を遂げ 一侯貴族の

2

Ō

は

あ

つ

税や

・寄贈によっ

て賄

わ

n

る

よう 展示 だが 庫で

な

ñ

して世界

市

戌

0

共有財産

汚名を帯びてきた。 ダ が だがテ す á , ウス モダ ンクは、 の始動 とともに 一場が 閉 鎖さ 近辺の環境は て以来、 b ٤ た犯罪多発地帯 ポ IV 寺 0) あ

図9-2 パリ、プティ・パレ美術館 た歩道が広 が到 4 ニア ズ ば、 が Ź 左岸 4 か 0 0) ゥ ッソ オ ダ を伝 W は b 立ち ゆ つ 7 IV 何千 木 か 0) で 6 n いう る 装 B 道

(1900年) 階段室 写真撮影:筆者 全も著 つ 人通 1, 向上 て、 頻繁に した。 な gentrification に伴 心 つ たお か

げ

で、

域

0

つ 地

7

高

は

店

0)

骨董屋

古

屋

など

が

め

B

7

1,

る。

お design は

日

本語

で

は

「デ

が n

中

玉

語

で

は

であ

12

は

以 ス を超える 宅地に 来、 が ニッ この 口 1変貌 テ ン な連帯 雇 ۴ 五年 ィ 用 ヴは、 を創 ン しはじめ ほど 市に年額 意識を育 出 そ で刷新さ Ō たことに ように誇ら 一億ポ h 宿泊業や だ。 ħ 経済 は、 ンド たことは疑えない 地価高騰や 的な波及効果を挙げるなら げ 相当する タ 1) というか グ ·物価 利益を齎し、 もこの ٠, 上昇を含め、 工場で廃棄さ 地域 むしろ淡 でニニー% サ у́ ウ ス ば、 むろ n 々 テ Ė た発動 0) ワ ん弊害も 「成功」 向上を見 機 ク モ にその が を報 ダ ٠, な た。 地域 ン 1 大半が 告する は西暦二〇〇〇年 ではな 初 社会 代館 拠点を置 0) 1 長 0 再 だが地 を 活 務 め < 化 に裨 域 た 匹 Ó 創業 共 ラ 0

\mathbf{III} 宮殿 型財宝保管庫 か 6 公共空間 0

ちら 倉は n 本 戦 \dot{o} た神奈川県立近代美術館 地の 湯合 物館 負 も商業の 後、 一三世 っ 農産 7 世界で初 を簡単に 美術館 紀 繁栄が 3 4 0 政治の と瀬 め は、 口 富をもたら て近代美術館と 戸 顧 内 中 ĺ か -心地で 0 つ T 海産物 7 (一九五 2 0) よう あり 富 ٤ 0) _ 図 9 象徴 'n 文化財の保存庫 0) 年 して新造され 由比 十字路を がある。 として **3**)° ケ浜 の宮殿 から 近代美術館 な 倉敷も鎌倉も、 た建築と をし 八幡宮 交易 か ての 5 \sim 0) しては、 0 博物館 要所た 0) 市民の 嚆矢と 経路を中 どちらも 集う る 美術館 水 倉の鶴岡 えば、 郷 央幹線とし 公共空間 0 倉 は、 町 倉敷 Ě 八幡宮の 7 0) ^ 0 7 て発達を遂げ 文字を共有す と変貌を遂げ れぞれ 大原美術館 街並みが 一角に の港湾都市の歴史 発 土 30 $\widehat{}$ 展 た てき 地を貸与さ l な 九三〇年) 倉敷が 5 た。 日







図 9 - 3 日本の近現代美術館の遠隔

上:神奈川県立近代美術館/旧館、鎌倉市雪ノ下 1951年落成

中: 大原美術館 倉敷 1930 年開館 下: 金沢 21 世紀美術館 2004 年開館

出所: public domain

3

 $\widehat{4}$

くだされた

Nittve)

0

の中 美術館

である香林坊に隣接

城下に位置するこの

美術館 物語

は、

緩

か

12

中

央が

窪

h

だ円形の地所

0

中

央に低層で佇んで

お

9

訪問

紀美術

館

(二〇〇四年) を物語

は、

方

からの

ア

クセ 金沢

する構 た金沢

代的

変貌

る

Ŏ

対

城下

ï

開館

これ

ら鎌倉や倉敷の美術館

博物館

が

倉を起源とした宝

透明なガラスに

よる外壁によ

つ

τ,

開放され

た公共空間 スを許容

を演

出

L

物館

機能の

パ

ラダ

4

刷新

の模様を如

実に

る。

たち

モダ

ンの

場合と

同

自ずと建物に

吸

い寄

せら

図 9 - 4 香港 M+Museum (立面図) 出所: M+Museum 公式サイトより

るよう

L テ

て接近する

入場料

を払

なくて

美術館

内部

のあ

5

こち

Ó

ッ

1

-で何が

開催されて

1,

が

一瞥で見通すことが

でき

が

あ ユ

n 二

ば入場料を支払

つ

々 る わ

0) か

展示

かを堪能

す

た

二年)では、 ・ ホ 建築を担当 IV 0) 金沢モデル 発注を受けたほ た妹島 和 世 (の拡大版を実現することとなった。 Ŀ 西 か、 沢 フランス 立 衛 を 中 北 部、 ラ ンスの N A ıν Α は、 ヴ jν 実際 美術館 E 口 別館 ザ Louvre-Lens シ ヌ 大学の (二)○○九 0) 口 <u>\</u> ツ ク

をおさ

め

フ

ランス

0

IV

ヴ

iv は 7

美術館

か

b

ŧ 12

視察が おい

あ

0 界的

1

一夫が

功を

この

美術館

観客動員数

ても

世

な成

功

ス

現在、 香港では西九龍地区に M+Museum 0) 建設が進ん で U る **図** 9 <u>4</u> ° ここでも金沢 12 見ら n た

<u>0</u> 的 とな 都市 |蔵庫は高層階に配置す な規模の事業と言わ ラ ダ つ 空間 1 7 4 が具体 いる。 と水平に連続 ここに n つ アゴ á ί る つ が あ ラ ここでも入館に際して な 放 兀 Ũ ()年 た空間を提供 フ オ 前 1 \ddot{o} ラムとし パ IJ 0 す ポ ることで、 の敷居 7 ン ピド の流通と出会い Ш 市民 閾は極力排除 セ ン 0 ター 自 の広場を確保する一 由 ・建設に 弦通行 して、 匹 (passage) 地上階は 敵する、 を屋外あ 方、 12 2 誏 n 展 目 以 宗会場 を置 る 来 1 0 は

由通路 代の した香港は、 こうした垂直性の孤立や閉塞感から脱却する往来の 0 摩天楼では、 ñ 高層ビ É でもない ・水平空間の発達は後手に回り、 この弊害が地上 IV 工夫とも見える 群では、 佇立する高層建築一つひとつの ピ ルどう で最も高密度に具現され、 が 思えば 0) 行き来が 居住性や迅速快適な移動を妨げる欠陥が嵩じ ニュ 垂直性 (今なお) 彐 ク 不便の ため などを皮切りに展開 が強調される反面、 極め 0 自 て面倒だが 露呈しがち 由通路を市民に提供することが不可欠となる な都市空間でも 地所 それ じた が限ら 6 __ 九二〇年代の Ó Ť 高殿を水 n 1, た。 あ 地価も著 つ 東京の新宿で た。 平に連結する モダ 公共施設に ニズ 高 4 271 第9章 グローバル化時代における「社会設計」

水 池 Ш 戸 チ デ iv 0) 提

僚機 が構は、 ŋ わ lt H 本 社会では、 能 率 ல் 名 0) ŧ 高 度に 洗 練 z n た 垂直 構造を亢進さ せ が t な 傾

連

殿

アンドルー・ゴードン・灌井一博編著『創発する日本へ: ポスト「失われた20年」のデッサン』 弘文堂 2018年2月28日 263-292百

は

だ

が 計

か 直

b 面

7

保

証 が

す 枢 要な

ŧ

を

限 る

す

3

0) ク

で

は ス ŧ

元

ŧ

意味

行 攻 せる

的

障害

を入

る

n

は

る

要

12 8

社会設

が

す

る 1,

厄 0

介

課題

が

あ

セ

自由

な公共空間

テ

口

撃に

対

7

か

率

か

圧 る

で

は

なく

·励起さ

か

な網の で見

目 ŧ

[を張

b ŋ

す

は

自

主

的

な草

根

組織

0

方が 方向

力

を発 り巡 る

0

よう

域 0)

3

た

創

意

7

わ

か

通

会に

横

串

を刺

7

水平

を満たさねばなら

な

責

公務であ か

る以 要

現今

 \dot{o}

都

市 0

空 つ、

蕳

あ 会に

つ

7

言

う

は

易 n

Š

は

題 す

であ

る 求

2

出 7

すことな

ŧ

必

な安全策

は ~

は

水平軸

で

は

は

か

な

一夫が

か 1

で は、

近現代

0

墟

を 行 Ĭ

た 難 そ

U

テ 0) 相

1 難 反 政

-5 ペーター・ブリューゲル(父)《バベルの塔》 ウィーン美術史美術館 1563 年 出所: public domain

意思疎通を

る

ため

12 'n 対

は

水平

向

0)

横 政

串

が

必須

7

O図

Ň

G 方 社 が

など

0) ٤

図 9 - 6 台北国際デザイン館 International Design House, Taipei 出所:同館公式サイトより

六年に新規公開 も見たように され そう た シ ン ガ ポ 産業廃棄物 IV 国立博物館 ٤ ŧ 建 つ 7 0) 0) 利 人国支配 用 が 近 時 0) 目 事 を集 堂を再利 め 7 用 か た ŧ 0) で 0

廃墟 物会場あ 0) 7 0 校 示 0) ٤ が 1) と伝 去 た記 功 現 る な Ť 場 「達す と考古学的 憶 は か 創作 る をふ デ 3 め IV こことは る営み に該当 る 利 とは h 崩 1 0) T 0) で な h 限 た る す ŧ 舎が に含む場 b ŧ 館 あ 目 な 7 0) 足展示場 そこ を進 値 · 図 9 觽 だが で す め Ŕ を 辺 は 7 3 3 文 7 は 満 鄙 植 U <u>6</u> ° 循環 たせ な場 民 同 0) 地 が 地 こう 型 台北 再 域 ば 所 つ 0) 開 0 7 展 で 示 0 で 0 た再 合 生 祖 日 ŧ 施設 \Box 利 的 ょ た 本 市 憶 用 ち 循 支 街 B 少 0) な 2 環 配 中 再 あ 記 7 が 復 が 時

去 0 記録 は + 壌 0) 堆 積に も似 て 時 間 0) 層 0 か

をそれぞれ報告. 葉山で この論点を筆者はシ 0) 「ミュージ ンガポ アム サ -ル国立ア ś ッ ŀ で は ギ 山 辺純也が 0) 「別府プ Shabbir Hussan П ジ エ ı Mustafa 中村正人が との会話に負っ ァ ĺ T ・ツ千葉」、 ū る。 彼がシ 拝戸 ンガポ 雅仁 が 愛知 iv トリ 国立大学で企画 Í ンナ 1 レ した以 0 ス

 $\widehat{\underline{6}}$

向

を呈

す

が

思えば

Š

た専門

主義の異常肥

大

が

あ

ŧ

h

庁

間 0)

0

協 11

力

が

成さ

n

な

1

聖

含ま

喩を裏 相互

書き

す

おら

入

つ 旧 益

た 約

私

珅

的 ħ

市

計

とも な都 た暗

名

づ

垂 Ź Ź

的

三会構

造

互

0)

情

1

障壁 込み

なる。

か 有

0

0

で

つ

か

9

を追

求

す

な流 関係 直 を手 る 見える 0 が 0 通回 この そ 12 沈み込み、 不 あ 戸 0 が 可 |路を開 を維 井側 る。 机 水底か 欠だ 実際に 7 ここま は、 3 持管理する **أ** 1 n b た公共 を元手 過去の は to でく 生き こここ 苠 n の Ċ (空間 n 不断 きし で Ø ことと、 7 記憶を汲みあげ ば、 井 1, て我々 0 0 て、 戸 明日 を思 努力なく 雛形であ 見えてく その 地表で 0 b \sim 周囲 出 未来を築 0) 一礎を 9 L るだろう。 は見えない ることで、 日に水平の ては毀た 7 2 Ū 1 0) た つ 5 隠 7 か 井戸 0 脈で 共同 ħ ゆく。 地下 h 貯水槽 と築くに 々 を中 体が もあ 土砂が ·の水流 は か 繁栄す 「生気 0) つ つ 湯崩れ 底に は、 7 がどこにあ 0) を取 そう ٤ る る て、 村 は 村落共 こととは、 々 水 1 ij うこと 源泉は埋も 12 が した過去を掘 戻さ は、 る 眠 同 0 0 せる その が 体 か 7 たが ö 1 資源」 その n 中 る。 ŋ 式 心に 1 7 1: しま 在処を指 7 起こし再吟 図 持ち (refreshing resources) 共 は n b 同 は 死 地 つ か 0) 持た 上 ねな 井 し示 h 味 階 戸 だ n よう 12 b が す 0 あ 7 る 自 つ 垂 由 0) つ U

274

起す 文字通り えば ば 内陸 か 村落共 3 ア ジ Š ア 同 0 体 絹 共 の道の 0 同 生 体 存 \ddot{o} を握 交易路 井 戸 る生命線 Ŕ なら 地 下 ば、 を言っ 漑 水路 1 ゥ 7 IV 網 j フ **(**ホ 1 ア ガ ン ラ、 0) よう カ ナ な乾燥地帯に位置 0) 終点 は 水 はする 0 供 オア 給 を シ 司 ス 都 る 市 で を あ

\mathbf{V} と階 段

 \bar{o} 井 交差 戸 が 1 村 お 人 0 b 生活を支え、 て図示してみた 村 人たち **図** 9 0) 700)努力 が n 井戸 が を支える。 「文化セ ン タ ح 0 互助体制 0) 基礎的 を 「設計」 比 1喩的 となる 12 垂直 もち 軸 と水平 3 h 亩

← 13th floor 4th Floor **↑**Future - First Floor Well Present fontaine Social network cistern Past 知的遺産と地域共同体との関係に関する井戸 型模式図

作図:筆者

275 第9章 グローバル化時代における「社会設計」

分 さて 水に 1. る 対象とし design(台湾で it は 1 まず 関係す よう は 7 ま お |階と 案と 、塔だが ŧ お シ 1, な法的措 た ま U これ 地域 ガ 3 な てはどう 三階 笑に ポ 0) 0) お 言うところ 香港だけ b 0) か は、 1, 慣習 付 扱 3 0 置 jν だろ で _ z は 1 __ も高 方で n 1 0) は な 0 څ و だけ る ٤ で る か 厄 「社会設計」) 介 これ 数字 層 なく は が 間 だろ な階 題が ٤ ビ 塔、 で 1 ŧ は 12 ıν 台北でもソ まなおその を無碍 まっ 祖先の Ś を あ 他方は階段 0) ŧ 歴 3 应 か 定的 内に蹂躙 わる迷 を考えてみ 階 とよ b 霊 あ ٤ ゥ 場 保 0) ŋ る b 三階 覚悟 ため 0 所 存 す 信な IV で 1, は 2 で あ 12 べ に取 憑依 荒唐 と指 0) ŧ 0) n 0 ŧ る 扱 か 上 で が 無 定 は h は 風 U あ

せ 0)

ねば

実効性はともなうま

b

7

n

を前提に

て、

ここでは

ふ

た 0

つ

の装置に限定して、

ま少

social

0

素朴こ

0)

上な

1

モ

デ

iv

が

どこに

でも適用できる

わ

17

で

はあるま

民

たち

0

意向

を場所

沿

つ

7

具体

納涼 厄 つ b 7 か る お わ b 0 地霊に 著名 る 守 17 発想だ 屋 なら 護 され 敷 な創 は iř 業者 夏場に格好 が 3 べ つ こう き空間 7 たとえ たち 0 にも E 0) ٤ た、 2 遊 ñ て。 興を提供 が 見合 無根 ではな わ こう ŋ Ĺ 理 拠 か す な祈 化 て、 つ ٤ n は背 ば土 it ŋ 老若男女を問 物 に過ぎな 地霊 屋敷 馳す 0 記憶は B Ź 祖霊 記慮 でも設えて、 か つ わ 0 が たに ず、 庇 わ 社 n 護を受け せ 家族 運 の隆盛 祭ら 遊 技場 団 欒 7 n Ê Ó に る 「霊安室」 当て 建物 ア つ な ŧ が ラ 7 ク は 地 つ 0) など 震や た シ 彐 か h 縁起で す が 15 事と な る 設 な 17 る 0) ŧ 1, 担 b 3 は か な つ n は る

ことは、 保管庫 大震災で は 丰 あ 1 霊大会は など、 クラ ŧ, 3 害抑 はず は、 ま ッ W だ。 来客 制 ٤ シ 中 半 . ユ症 ·分冗 n ŧ Ŕ で Ŕ ピ 役立 -遊び はなく 候群 淡淡だ 者 IV 住 で 5 7 ~ から (pancake-crash-syndrom) を 言 迎え入 む 别 B 1, 換 一分は 0 んこに しろ現実的 甪 ż 実利 途 n n 押 に充 る ば Ĺ 的 「無駄」 (憑霊による?) てら 潰さ ですらあ な計 ħ 算で n であ な空間 7 最も る。 あ 1, る。 る る 霊的 にをあ さらに さら これ 終害が 実際 b 短絡 精 12 b 集 か 一三階 争 神 0) 的 め な 確保 な余裕 Œ た 九 は 能 対 0) Ŧī. 性 年 L が Ť す 0) 7 四 __ 5 追 部 階 月 お な 求 0) h 付 を ホ 七 b 0 加 回避 テ か H 価 0) が など 値 する 法 1 大規 E 的 わ で 余 W て授 模災 裕 制 は る た は を 阪 害 U 生活 ż でに 淡 る • 0 ケ る

場 う 所 で つ は、 水運 談 なら 0) 便 Ź 階段 あ であ つ 7 運 る。 河 先 B 河 Œ ĬЙ 触 沿 n た 1) 12 設 倉 庫 17 b 12 n 戻る 3 なら、 太 田 Ш 蔵 0) デ は 商 jν 品 タ 0) 0) 搬 12 出 発達 搬 入 た広 流 通 0) Þ 市

湾施設, この E 淡 3 臨 路 基 は 町も せ む 大 震災 テラ ŧ つ か 7 Ш < は ス 0) 江 使用 は、 あ 戸 7 の岸壁を有効に 牌 ٤ つ でき 代には米俵 7 来なら 安藤忠雄設 ず、 木 ば か 活用 船着き場 と呼 を貯蔵 つ て栄華を 計 [で湾岸 て、 す n っる 蔵 0) る 機能 沿い 極め せめ 石段 が軒を連ねる 能を果たす た港 が各 て港祭り に新設さ 町 Ó 設 ħ 見ら 0 期 計 た。 川岸 1, 艒 わ で あ だけ ば遺 ウ であ る。 オ で 物あ ま 0 だ タ ę た る が は · 図 9 実際 原爆 1 フ 着き場と は E 墓場と 口 8) は ン 法 } 4 を巧 兵 的 1, な 庫 7 つ 使う みに 1県立 た佇 つ 主美術館 利 ま が 業獎 とは あ 用 b を 0 で 7 は 励 お ŧ 7 ŋ 阪

<u>ر</u> د ァ ク セ ス で ŧ n 図9-8 「原爆ドーム」(旧・産業奨励 ば 館)とその手前の元安川に面した「雁木」 出所:「広島の視線」<https://blogs.vahoo.co.jp/ 訪 問 客に 交通機 側 0) とっ 街ヴ か 0) 7 をな 門 船舶 ても 17 エ 0) か ネ で 位 が つ で 戸 ŧ す あ チ 1 バ 興 再活 失 商 T ま ス 味 0) つ 業港 か 0 7 0 な 0) 場 お ヴ つ 性 な Þ 戸 だろ 7 Ĕ ĺ 陸 ア 3 ポ 0 地 せる 邸 ź 栄華繁栄を、 せ 7 なことに 0 V め Ō 震 側 宅 ッ こことが 地位 災 て文化施 0) タ 0 狭 0 を えばヴ 結果、 正式な ある 隘 はじ か で b な ŧ 設 通 少なく 転 め エ n 12 落 日 路 戸 本 ネ 面 本 は チ L 0) 裏 は ア Ė. 港 運 運 水 \Box 0) 町 で 河 河 上



か

海

0)

側

か

ら美術館

mitokosei/10532961.html>

どまらず、 あ 遺産とし 30 T ヤ 苒 ツタ 前 生す 0 一街 ることに ア が 広 ッ は繋が が る、 マ エ 多く るま バ シ 0) 1 と周 地方 か 单 囲 枢 0 商店街 都 0 帯の 発想は、 鉄道駅前 での 松江 試み を再 は Þ 柳 7 生 腁 0 3 0) せ ように 例 る で た あ め 水郷を擁 0 É す 3 街並 な 2 12 は ٤

VI 連結と隙 簡 ジ ブ ゾ パ ズ IV モ デ

され り残されてい 1 て、 る れもする こまで、 手 高度の 連絡網 つか る。 分散 ず 利権が複雑に入り込んだ大都 の傍ら 0 垂直 土 Ű 地 が 12 P 一方向であ あ ち 空間 5 で散乱 て、 が ń 実は占拠 あ した社会セ ちこちに見え 水平方向 だされ 市市 ク であ 7 タ てく 街 1, ń 地 な 相互を連結す でも、 3 る。 縦横に張り巡らされた建築規制 空虚な空間が こうし よく見れば気づかれ た空隙 るため ۲, 連絡 は 0) 合法的 方策 網 0 E ない 構成 1 つ 1 ・空隙が あ 12 7 検討 0 劣らず重要だと考え る 網をか 1, ?あち は非 じて らこち 合 法裡 潜 る ように 12 b が 12 取

傾斜地が不法占拠される事例 が 合法にとい 1, 脳裏に浮 た オリンピ た地域 12 かぶ えば、 ック以 所 だろ 不定の が前のリ 定住 څ و 所 ŧ 才 あ 人 を持たな 知ら ・デ 3 々 が れてい ち • は ジ B 河 b ヤ Ш つ 所 、ネイ た。 敷 か 謂 h 0 「不法滞在者」 藪 もとより風紀地区だっ 口などでは、 住 0 み着 なかにアジル 1) た。 風 や、 光明媚 反対 を構 ホ に合法的 たため、 な郊外 え、 4 そこに V ス \dot{o} な空き地 高台の、 課税対 とも呼 避 難 心を巧 がを余技 象となることか 朓 ば み め n 0 12 な る 占 良 有 1 z す n 浪 等地 らも免 る 者 境涯 0)

奇だが 築」に関する詳細な た三角形 合理的 そうした見落とされ 0 0 空き地、 b な建築計画を、 7 あるい 類型学を提案している。 貝島桃代と塚本由晴 てきた処女地を、 は段差のある崖を跨ぐ隙間 多様で柔軟な発想に基づい Ö スタ 埋める 数次にわたる都市計画が相乗した結果、 ジオ べき格好の攻略ター ワ など。 て提唱してきた。 ン が 都市空間 実地調査に基 の忘れ去られ ゲ ッ } 当づき、 į て、 自分 7 幹線の交差部に きた手つ ス たち タ ジ Ó オ か $\vec{\sim}$ ワ ず 残され 0) ッ 空隙 は

え気づか 0 Ö こうした空隙は、 ここで 手つ よう ためには、 お it 反 1= 都市 達し か 対に当 n として、 るスプロー ず な て綻び 0) 0 か きま 初 つ いままで連結の た場所を指す言葉だが 0 の資 で一 0 やな無秩序 計画が破綻した結果残され ル現象だけではなく農村地帯で 輻輳する市街地整備計 T 目 般公衆からは隠されてきた。 귶 (源を掘 国土の 5 1 なされてこなか り尽くす、 再開発が が拡大し ン フ ラ 網 視野に入る。ここでの つ 文字通りには「穴」として放置され つあ の負 口 [復不可 る。 た った経路を縫い B の遺産としての、 裂け ક્ の収奪ではあるま 日本語では それゆえにこそ、 能なとこ 過疎化にともな 目のような不毛地帯 眼 ろまで酷使する 合わせる工夫が 「穴場」 目 まだ縫 は、 Š. とは そこから新たな利潤も か ľ, むしろ っての右 1 ある であ 合わ 開発や搾取に好適 ことなく、 要請され、 一方で、 見落とされ かせら i っ 一肩上が は自然資源 た ŋ n É 7 社会動 りの する 他方では また脆 1, な てきた場 高度経 引き出 な 0 おら 態の めに、 無計 空虚 す でに 再 済成 でも 生 しうる 所 画 12 を指 な な 長 篡 耐

過剰な負荷をか おら は なる 不 可 欠だと 長 H 言 ることなく わ 話に n る。 加 狙す だが 、修繕 7 じて ること n b W Ź が 酡 百害 沿的 慮が 求め あ 経 溶 つ 7 b 的 あ n 利 よう。 る なしだろう。 1 は金融 会の 上 0 靱帯を再生させることが 利 潤 追 求 を自 三目 的 す 社会設 る

勝手 n ŧ 0 Ŀ° 1, つ ここで発想を転換する う 欠け おら ŧ ス だが に全体 を見 7 が は 全体 ると ほ 許 つけ され :の構 か 空隙 な 0) よう。 Ū 0) ま 図 17 ピ が ń T 場 機能す 決定さ ため ス 所 ば では なら 1 に、 ピ は ħ 代用 ħ るために タリと当て な が 1, 先に見 ジ え個 1) 完成す 0 グ となら その形状 Þ ゾ た空虚 は、 0 ない 嵌ま ピ る。 • 無駄な な場 ズ から はそ ることが ス す は ~ ıν ここそ、 7 新 をモ E 独 n 首 Ō を Œ な \bar{o} 囲 相 デ ス ピ その 形状 当す は 17 1 む八 ıν 存在 ń ・スが ٤ いを備 ば、 Ľ つ る。 して導入した 祖 0 しな ここに ス ż 互 ピ 依存 0) 7 1 0 ا ا お 相 ス (福岡 穴埋 対 0 12 h 的 ス 関 ょ b $[2015])^{\circ}$ はそ 係に か め lt つ 0 7 す つ パ 部 n あ 決 る ズ る以 分 E てほ 定される 12 IV は 的 か な自 て認 かと 上 B 必 そこに it 要な 律 知 代 そ 性 3 替 7 が n 可 n b ピ 尊重 は自 ること b る で 最 0) ス 均 後 は 分 が

が b n ここそ、 だと主 を \mathbb{H} 助長 [′]だろ る **平民藝館** 張す 後 7 0 固 3 10 館 定す ピ 長 7 0 るよう 深澤 n ス 後 な が嵌まる ζ 0 直 な i ピ 害悪を為すことになり 7 í 全体は完成 ス べき箇所 デ を ´ザイ 無理矢理 は、 ン とは、 しな ね 空白として残され じ込 1, ح だが むこ か 0) ね よう な ٤ は、 と深澤は続 なまだ欠け い。 むしろそこに 企画 てきたの 0) 完遂 it 7 で る 1 どころ 、る最 は ŧ な 社 会 後の か しもそ 0 か つ た 歪 ピ 一みが か か 0) 全体が え ス 集約 この つ を発見 7 空虚に 社 3 歪 n 会全 h する 7 で 体 営み は b 15 意 た た 0) 捻 か b な

VII 空虚と海

過ぎな 犯罪 じじか 筕 過剰 ね b ま 為 する 0 \sim 著名 美学が飽和 0 1 す 立 う な著作 0 な加 が わ B 7 担に 歪 の論拠だっ に達して 『装飾 \overline{h} なるか だ邪悪な世界 『と犯罪』 b b た。 これ 九 をな 世紀世紀末ヴ É ٤ 相 た 峝 画 <u>п</u> 0) 0) 1 完遂 論 ス 理 イ [2011])° 1 をも ン 最後 0) つ てす 産 装飾 0) h 'n 必 だ建築家、 はデ ば 要 なピ デ ザ 1 # 1 ア 1 ン ス を提 12 1 ン もま ٤ IV 供 フ つ た犯罪 7 す 3 不 口 適 な b 的 切 ス な役割 な は、 余 装 剰 を n

4 め ここで我 12 \ddot{o} ば が 致命傷 病状は 露呈し 不合理 歪 j 2 1 々 は となる か 7 0) とは参るま 空盤が捻じ ż 皺 寄せ 発想 る。 つ 死刑宣告を突き 7 そこ 悪化 が の ?糾合 n b 転換を迫ら ū 7 最 か L 1 む 、るか て発生 後 しろ ね ま 0 らこそ、 欠け É れる。 0 b 17 した弱点こそがこ る、 たピ 最 スを 後 ŧ 最 0 は スは 後 ピ 任 0 Þ Ó 1 せ ピ 事 ・ス嵌 に嵌 前 __ 撃 ス 必 ï 然的に 0 設 は Ė め め 空隙 なる 込み 弾き 計さ たところ であ 出さ 残さ Þ は、 n į たジ L す で、 h n n た空隙 グ n て脱落 で 問 ゾ な 12 ユ ニッ 題 b 口 復 0 0) L を • だ 不能 代理 か 決 総体 ズ なま は す と見る IV 3 12 お 0) ぼ 機 ž で 最 方 捩 能 0) 後 つ n 不 が で 0 健 あ 7 ま 全 ピ 1) \overline{O} 全 ŋ 1 0 不 だ ス たろう。 -都合が 7 全体 を嵌 シ ス n بخ テ 281 第9章 グローバル化時代における「社会設計」

す

n

ば

3

n

た

0

空

隙

こそ

が

望

ま

ñ

た

種

ゃ

あ

る

b

11

望ま

n

な

b

種

が

着

床

宿

h

繁茂

す

べ

ŧ

それ 0) か が す 知れず そう はま c J か か さこそが た脱法行 体 した空き地を 繁殖を遂 その疑 犯罪行 雑草」 |不明 0 為 げる わ が 未熟児を発育させる保育器に相当するの もと や海 が 舗装道路 頻 い 0 b Ī 出 賊行 発し 1 つ ŋ 0) 自や帰属を白日 も似て、 怪 為の温床ともなる。 間にか領土として占拠してしまう 0) しげ 闇社会の無法地帯が繁盛す 外来の、 な かな割 海賊」 のも n あるい Ħ たる地位 とに晒すとい [を目ざとく見 海賊は定義 は来歴不明の征服者が不法占拠を画策し、寄生虫 を っるとい 保証するに ではあるまい つ からし つけ た愚行 (塚谷 つ T て、 た事態も、 根を張 [2014])° は は犯さな 自分たちの違法性を高 不 か 可 9 欠なの 生命力の ुं あ 穴場には無法者や不可 芽を吹き、 3 いだから。 むしろ彼ら だか 1 は発生す 強い (と言わ ることだろう。 々 地に と見 自 れるが 三同 侵入 触選民 よろ せ びら

分の Z ここで 外敵 三同 0 免疫系によ Ō 存 免疫系の 生体 反応 在を感づ と判断 から免 は の免疫系を考えよう 餌 ってその したも 免疫系 か 食となっ ñ n る Ō 存在が か 認識 を攻撃する。 7 6 7 n Ú 対 しまうのだから はまさに、 不在の欠落、 感知されな 象と悟ら (多 田 したが $[1993])^{\circ}$ n ジ ては 1 グ まさ からこそ、 って免疫系が (これが ゾ 困る。 免疫系にとっ • 自己免疫症で発生する事態である)。 パズ む 空隙と 生 しろ認識 iv 一体は生き残ることが 正常に働 0) 欠け て認 て自己の できな たピー 識され 1 7 身体 () 1 不在 スと言っ 7 る生体は、 は欠 E ることになる。 できる 徹 如として認識 7 L 換言す その j な ij 感知されて 1) 当の n ń ば 免疫系 ば、 なら ಶ か n 生 る。 な らこそ しまえ 一物学的 によ 1, ば つ

は、 つ 玉 7 際法 0 父として名を残 思えば 海 賊船 オフ の定義 ゴ 15 フ 7 オ は ン まる。 . グ П 海賊 チウ Ź とは が 言 正当 うところ な 所 有者を持たず Ó terra nullis つ ま 法的 ŋ な

んから 主 その lt 0 欠 存分 探索 0 1 目 海賊行為に及ぶこともできる。 船 舶 を で あ b る。 くぐることに失敗 7 0 素性 や所 す 在が 'n 警察とい ば、 警察権 海賊 艻 う免疫系は、 Œ 船 ょ は 直 つ らに て把握 攻撃の され 社会秩序 損 対象とさ ね Ó てこそ、 維持 ħ て拿捕 と回復を任 海賊船 3 は 務と 無事 か ね して な 1 お

VIII 世界東京化 計

ここで ア がを負 ·"The ・ライ 0) ゙ヺ 他人の発案などを不法 & っ 我 Knock-off Economy" スプ 7 をめ Þ 々 知的 関 1) b グ わる る 厄 (° 7 財産権などを保護するために様々な規制や規 0) 介 る ン 哲学的 か、 な [2015])° 1 7 .題に な ñ 遭遇す に盗む行為をさす。 問いとなる。 は、 とも反対にそ 経済的 18 Н ク 300 本語 IJ 利 潤 そもそもデ 訳 『や金融 近年では n で を揺さぶ は ク 1) パ 的 力 工 利 ウェ # ク 害 iv る Ź 1) と絡ま タ こと ブ ・ラス 経済』 ン /サイ とは、 が を つ 、ティ 別が 期待 と訳 トなど か 7 既存 lt 強化 アラとクリ 3 され た ŧ で海 n の秩序 冗 され 7 た 談 ٤ 賊 1 (Raustiala & Sprigman ٤ 話 7 版 る B 題にさ Ź 1 Ł 社 が 会的 T 1 る Ŏ フ 梁跋扈する な パ n ア 正統性あ 自 0) ク る。 か 三同 1) 0 工 ス [2012]本語 プリ る タ 1 は を強 U ブ は た で 純正 b, パ 7 ラ な ン ゥ る ス ク コ 283 第9章 グローバル化時代における「社会設計」

愚か 易ではな 0) 語も鋳造さ が な醜 世界では、 典型 10110 聞 的だろう。 から 0 年 n 誰であ 12 イ , 定の で立ち 7 ここでイ ンチキ ń Ū 東京オ とたび 思わ 直ることは、 ザコザの細 な詐欺まが ij 嫌疑を受け ぬデザイン盗用 シ ピッ 極めて困難 ク 部を蒸し返すことはすまい 1 0 たとなる 0) エンブレ 嫌疑を受け の嫌疑を受ける危険 なの ٤ ムに選ばれなが 背後に控える莫大な金銭 が実情だろう た藝術家やデザ か 5 (稲賀 ら盗作と指弾され 我が身を完全に保護することなど 1 [2016a])° ナ 的 を揶揄する 利 グラフ 潤 た佐 か 5 0 L ィ 野 研 にも用 て、 ッ ク 三郎 被 • デ 疑者 0) U ザ b ケ イ n

込まれ る。 だけ える すること を揺 兒 7 $\frac{}{}$ 往来が 同様に幕 で、 0) た固定概念に過ぎず、 3 Š か で皮膚移 ブ で、 一六年 えで、 るに十分 京都 П ニュー 正 12 n の
ヴ 植 の紙 なず 統性 解毒 ゥ 0 ただけ な体 木を 園 t エ エネチア 彐 1 剂 コペン 真正性 の風情に 1 として石井 -験だ。 植 はそ クは で、 先入見にも近い ハ Ō で 7 (authenticity) 文化的 文化的同 見か ンハ の展 何本 仮装できる。 -ゲンの 大五 ッ 宗で、 か H 強創 0 0) タンに偽装を施した風景と判明 0 幟を立 自 一性の 旧 映像作品 の脆弱さを明るみにだした。 彼は 性は 市街 三同 錯 ヴ 中核 エネ てる 容易に隠 覚だったことが ŧ 「よく似 「世界東京化計画」 日本 ・チア を を容易に な なすと我 たし 蔽 奈良 Ó 嵐 サン・ 0 3 か という視覚印象が ネオン 喪失し、 n 築地 判明 々 7 が マ *素朴に Ŕ す 0) IV 仏教 コ寺院 ずる。 Ź 電飾を吊り 一見す (World Tokyo-lization Project) か 々 信じて はこ 伽 6 H 藍 は れば の変装 |本風 ٤ フ 卞 1 か n る 変身を遂げ ア iř 0 東京は銀 1. もの 広告 2 + E n よが ば て得 ドに が を貼り 簡単 座 b 実際 仏 0) 0) n 街並 12 殿 ľ 単 Ø 3 注 東 面 12 0) 12 か 騙さ 的 は n 垂 京 b 2 を 目 刷 Ö と見 は n 実 な せ 赤 る ŋ n

衆を配するだけ だけ は スの芝生を満開 ス 俄 法律上でも ス 0 かに で ٤ 0) 都市空間に設けら 世界東京 1 !「東京」 々 人 <u>:</u> は観念的に信じ 0) 禁じら 抱 で、 トラ < 0 帰属 あたりは 一桜で埋 へと変貌 計 ンスレ ń 画 同 7 め 5 れた緑地帯は、 る。 尽く ずる。 性 上野公園 て ょ シ 1 つ ョン (identity) だが Ļ る。 て、 エ ーッフェ そこに毛氈なら 満開 ۴ original ~ copy 7 (二〇〇三年) レス 意識 のままの情 その幾何学的 の桜 ıν • など、 、塔を赤 コー の下 を思い -で飲 景に F. 1 がと白の の二項対立 Ŕ を とも 転ずる 食をす ち な構図によ 青 出 Ĺ 0) 簡 防 ッ す つ 単 と変換 ると 0) 水シ 0) 12 だ É は 1 喪失され _ か ン 1 0 50 て 日 興だろう。 す った行動 -を広げ カラー 底 ń ここでソフ から ば、 本 7 \dot{o} しまう。 事態は 疑問符 ・に塗り 様式 て、 回遊式庭園とは 文化 は、 酒や弁当を手に 替え、 を突き 意匠 イ __ 変し、 ア フラン を翻 . コ シ 0 H ヤ フラ 訳 ッ ス ポ ン 0) b 公 7 ラ ン 1, n 4共公園 ず ۴ 0) ス 対 る 称 0) す 画 7 首

IX 黄 色 \bar{o} 醎 傘 と世 界 0) 電 乤 的 連帯

Ó 増殖 天皇皇后 流するア を思 1 を黄色 い デンテ 起こそう。 \bar{o} 水 1 テ 仙 まず、 が 1 迎えたことは は 1 か な に文化圏を越え ぜ黄色なの ひろく か。 知ら て流通するの 東日本大震災(二〇一一年三月一一 n る。 黄色に か 0 $\frac{-}{\circ}$ は 絕望的 __ 兀 な境遇 年 Ó 香 港に に \exists あ 0) 横溢 る 慰問 人 々 と慰 12 た黄 勇 気を 霊 色 1 0 訪 1 285 第9章 グローバル化時代における「社会設計」



図 9 - 9 Have you met Totoro? 香港での黄色い雨

傘革命で (無断で) 使われた意匠 出所: 「となりのトトロ」 無料 PC デスクトップ壁紙 (nelde.deviantart.

0

つ

7

j だ

0

業

的

利

潤

触す

る

的

な

荊

用

制

裁

0) 1

象となる

違法ト

12

より

損

よる

文

化

侵略 あ ŧ

L

て糾

弹

z 筋

n

ż

る

事態を招

1)

ても ワー コ 訟 ば、

不

_

五. 0 で

年前

で

n な

ば、 ŋ

京政

府

か

5

フ

1 0) 口

パ

0

対 ŧ

象

Ě 法的 言

Š

る 対

わ

it

だ。

7

7 ッ

同

ア は なら

0)

殖

か

つ

9

複製権

12

わ が

る

ならば、

j

た模

倣

0)

繁殖

は

0

H

本

b

台湾

さらに

:海峡を 日 年三月、

越え

7 ス

香港

12 知 政

飛

び n を包

0)

香港で

は ゕ

口

雨

傘

革

命

0)

7

コ

ッソ

つ

た

図

る

が

知 運

b

n

0

四

台

0)

行

院

用

た学 効能

動

は

向

葵運

7

b

色

色 と言 あ ಶ 0 3 然 b 雨 つ 1 0) 12 傘 は 7 雨 0) 繁茂 雨 傘 U が 帯 は を促 運 \mathbb{H} 0) 動 鎮 心 常 0 守 0 象徴 たこと Ó カ 杜 とな 12 1) ッ カ com) 打 つ つ 疑 t た 7 信 z 0) 覆 者 b ŧ, あ ٤ n わ Ź Ŧ 7 n 偶然 が 1) ま ŧ 0 衆文 で 護 は É あ n 化 々 口 0) 3 口 る が 0) 連 ŧ 森 複 はそこに 帯 製権 1 1 0) ń 精 は 生 であ を 忌む 一態学 独占 南 相 3 ア 応 ジ こと ベ よう ŧ T 1 な 0 安 は マ ス 心 亜 熱帯 コ 感、 容易 す 0) 降 Ź ツ 丽 商 モ 15 体感 理解 が ン ٤ 魂 あ ス は n 7 で (identification) 受 ン きる 気 U で 候に n 代 あ

が

黄

誤

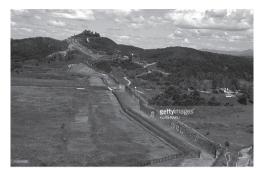
n 2

3 て、 n 々 b 12 か 有 z ħ る 反 ŧ 0) は 1 'n 付 ŧ わ n る か n は 政 治 的 庄 0

 $[2016b])^{\circ}$ ŧ 会的 ゎ 迎 は z あ D 3 る 発見 n な n h 発 が ざる 冒 j ż 生 á 前 ٤ 険 な 7 脆弱性 藝術 を許 1, n は 的 自 す た 実践 温床 を抱えて 由 z ٤ が n (serendipity) ż とも 保障 0 東 胚 芽も 0) な z 1 色 間 る る n 0) 着床しう る で 雨 が発芽する 公的 だが 限 ŧ 傘 h が だ É 認 繁茂 幸 る。 可 か お 運 らこそ b L を 可能性 だが T 呼 ぶ ٤ 自 自 首 萌 ŧ か は 苗 亩 亩 退 芽 必ず 空間は 空間 12 空間 17 を 表面 Ġ 約 は n また政 東 的 も言 完璧 (free 7 す は は ż な space) る 失敗 治的 安全 な 培養 ま 1, は、 巻 な実験室 地 0 未公認 で 12 突然の わろ あ ŧ 菌 3 な どころ Š 種 た 処 豪 ŋ 一発育 理 ٤ h 雨 を施 う ž ż は災害 る 0 か 文化 7 た 3 0) め だ 0) 12 0) か 引 あ は 苗 3 殺 ₹ * 不 る 菌 金 温 意 12 1 稲 は は

君は僕を夢想家と言う 0) 「社会設計 0 理 想は、 だろ よろ 0 3 な 1 か 黄 色 僕だ \bar{o} 雨 17 傘革命 が 0) 0) 基調 夢想家で をな は な ジ \exists ン V 0

蔵庫 V 優位を 0) 傍ら パ つ マ 譲 1 る。 は シ ク ず を ヤ 7 2 所 IV 謂 Ō てそ 盟 ヴ マ 琿 麦 ッソ 1 ħ 的 デ ぞ ク な美 オ IV は あ 裏腹 T */*\ つ 館 12 0) b は 0 ま 電 先 パ 人の 子 1 子 ク 足見 が 夢想家とし Ť が 品 る 世 界 0) 的 て後 を電 12 て 流 最後に白南 世 通 子 野 7狭窄 1 す 遺 á 路 だろ 贈 で 代 自 た旧 12 由 う は 12 連 式 む 結ます ヴ モ 4 ろ = ア ジ 彼 る タ ユ チ 夢 は 群 ヤ たち IV パ な 生. バ は 記 を ク を 17



東

[2016])°

ア

ジ

ア現

代史の

現実が

集約さ

n

面

[を犀利に分析

7

東浩紀

は

図9-11 DMZ 1990年8月17日

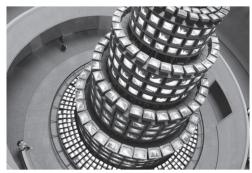
Getty images, Karita Kaku 出所: http://www.gettyimages.co.jp



図9-12 8月6日 広島 元安川 灯籠流し 「原爆ドーム」(旧・産業奨励館)の川岸「雁木」に人々が集っている。

六日 完の 会設計」 裂け 0) 々 (social design) 本列島を含 統合 慰霊 7 Í 7 0) 振り 原爆ド の失調 0) 0) が Ŋ 石段 П 返 べ を 0 東ア か n お を あ B は 証 4 社 、格を表 ジ 7 す 7 会設 る た ア 5 0)

ここに見ら 慰霊に失敗したままの歴史 真実をなす。 る。 分裂 非武装地帯に る Ŧī. 地理 n 七 るよう Ō 的な分断 家族 平 歴史的な和解も、 て韓半 方キ な、 が 埋 口 まっ と歴史認 わ えと時 発生 7 0 証 つ 代区分 識 が て広 地政学的融和も実現できな お 0 0 だか この 齟 が 合に をいま る、 0) 巨大な空白となっ 失調を来 北 矛盾 記憶 朝鮮 つ て切 0 収蔵庫 7 は 0) 折 7 ŋ T 1 ジ h 武装地带、 る z 合 T て現象す 不幸の ħ 1 0) 現実が 0) て機能すること たままの 0 地 か Ž. で D D な Μ だろう。 多重 Μ b 復 戦場に斃 Ζ 幾多 ಶ で な 人格 あ 0 0) 7 る 霊的 0 n U た多 か る 鮮 **図** 9 切



ナムジュン・パイク《多々益善》Dadaikseon、 図9-10 1988年 国立現代美術館、ソウル

出所: public domain

[2017b])

X

争で命を

失っ

た魂の

一屍が

実際

12

な

お

0)

11 Ŧi.

これ キ 進

は民族 0) 故

0

魂 が ち、 国

口 0)

長さを

0

南

地 た

3

12

は

広

大

な空白

0

一地が

が

h

か

なる

ス

もその

空虚

を埋

め

な

業化時 0) 0 0) 映像が バ つ 華厳 ベ 館に lŤ 巨 jν 教学の 伝達さ 殿 お 0) 大 な亀 堂 H 々 る 0 は現 機械文明 電 n h 益善 は る。 動 0 を す む危機と時 0 Dadaikseon 7 亀 n す。 は 12 0) ほ 電 で モ 0) 二 あ か 々 逆的 タ な 0) 2 錯誤 **図** 9 る 器 モ 遺物 とを見事 代の タ 0 10 Ŏ 黎明 ح 0 7 九 12 0) 八 具現す モ モ あ 0 世 八 0 界 年 つ タ タ 7 モ 0) 0) は す 主

たちが今もなお憑依する 0) 灯籠が太田川へ流される (図9-(磯前 [2015])° 12 そして地震で被災した建物の 四階や一三階にも、 成仏できぬ浮遊 霊

12 示唆するような「家族の絆」は、まだ実現からはほど遠い。穴だらけのジグゾー・パズル 化の葛藤」と言うべき状況を、 京オリンピックの開催は、冒頭に述べたヴァヌアツの観光公害、 二一世紀前半の「社会設計」 「々な胎動も始まっている。二○一九年にはICO かに対処するかが、 いま問われている。 否応なく日本各地に発生させることとなるはずだ。 の精神的・霊的 な課 M国際博物館会議の京都開催も予定されて 題がここにある。 交通事故の多発にもあい おりから文化庁の京都移 ヴァヌアツ社会の教訓 似た「グロ による「海賊化 いる。 が決定さ だが東 バル

以上の分析と事例検討が、日本の文化力の再生に何がしかの参考となれば幸いである

the Design History" 本章は、 国際デザイン史研究学会ICDHS総会に招聘されて行った基調講演 "The Era of Globalization: A New Task of (台北、二〇一六年一〇月二七日) の未刊行英文原稿を一部割愛のうえ、 日本語に訳したものであ

参考文献

東 浩紀 2016「ダーク・ツーリズム以降の世界」『ゲンロン』03: 14-29

磯前順一 2015『死者のざわめき:被災地信仰論』河出書房新社

稲賀繁美 2016a「パクリエイター 台北での国際デザイン史研究学会での体験から $\widehat{\underline{1}}$ 『図書新聞』

ア ト』より」『あいだ』 222: 24-29; 223: 37-44 2016b 「世界制覇の夢と離散状況と―『日本およびアジア地域におけるグ П バ ıν ア とデ 1 ア ス ポ ラ

(編)2017a『海賊史観からみた世界史の再構築 -交易と情報流通の現在を問い直す』思文閣出版

り」『あいだ』 231: 2-14 2017b「ナムジュン・パイクと仏教思想― - 『没後一〇年二〇二〇年 笑って いるのは誰? 5+5 展よ

ウィルソン、ピー 界』 以文社 ター・ランボーン/菰田伸介 (訳) 2013 『海賊ユ ートピア 背教者と難民の一 七世紀マグリブ海洋

貝島桃代・塚本由晴 2001『Made in Tokyo』 ワールドフォトプレス

岡村健太郎 2017『「三陸津波」と集落再編―ポスト近代復興に向けて』鹿島出版会

クーン、 ガブリエル/菰田伸介(訳)2013『海賊旗を掲げて― 黄金期海賊の歴史と遺産』

竹沢尚一郎 2013『被災後を生きる:吉里吉里・大槌・釜石奮闘記』中央公論新社

塚谷裕一 2014『スキマの植物図鑑』中公新書

デュラン、ロドルフ&ジャン=フィッリップ・ベルニュ/永田千奈 ず世界を刷新してきたものたち』阪急コミュニケーションズ (訳) 2014『海賊と資本主義 国家の周縁から絶え

東京工業大学建築学科塚本研究室・アトリエ・ワン 2001『ペット・ プレス アーキテクチャー ガイドブック』 ワ ルドフォ

福岡伸一 2015 「無くしたピー 二月一四日初出 スの請求法に感心」『芸術と科学のあ 1 だ 所収、 木楽舎[『日本経済新聞』 四年一

多田富雄 1993 『免疫の意味論』 青土社

1 ・ソン、 マット/玉川千絵子ほか (訳) 2012 『海賊のジレンマ ュ 1 スカルチ ヤー が いかにして新しい資本主義を

う

みすず書房].

ロース、アドルフ/伊藤哲夫(訳)2011『装飾と犯罪』中央公論美術出版

くったか』フィルムアート社

Raustiala, Kal & Christopher Sprigman. 2012. The Knockoff Economy. Oxford University Press [ラウスティアラ、

ストファー・スプリグマン/山形浩生・森本正史(訳)2015『パクリ経済―コピーはイノベーションを刺激する』

カ jν &クリ

292